

問1 日本銀行が実施する「買いオペレーション」に関する説明として、その目的と仕組みを正しく説明しているものはどれですか。（2017年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 不況時に、日本銀行が銀行から国債を買い取って代金を支払うことで、企業への貸し出しを促し景気を回復させる。 | 2. 好況時に、日本銀行が銀行へ国債を売却して代金を受け取ることで、過剰な資金を回収し物価の上昇を抑える。 | 3. 不況時に、日本銀行が一般の銀行に低利で資金を貸し付け、政府の公共事業を拡大させることで雇用を創出する。 | 4. 好況時に、日本銀行が金利を引き上げることで、家計の貯蓄を増やし将来の消費活動を安定させる。 |
|---|---|--|--|

問2 日本銀行が、景気や物価の安定を図るために金融機関を相手に国債などを売買し、世の中の通貨量を調節する仕組みを何といいますか。（2016年 鳥取公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------|------------|-----------|----------|
| 1. 公開市場操作 | 2. 支払準備率操作 | 3. 預金保険制度 | 4. 財政投融资 |
|-----------|------------|-----------|----------|

問3 日本銀行が「発券銀行」として、日本銀行券を独占的に発行し、その流通量を管理している最も大きな目的は何ですか。（2023年 愛媛公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 世の中の通貨の量を調整することで、物価の安定を図るため。 | 2. 政府の財政赤字を埋めるために、必要なだけ紙幣を増やすため。 | 3. 一般の銀行の利益を最大化するために、金利を固定するため。 | 4. 国民が自由に紙幣を印刷できるように、技術提供を行うため。 |
|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|

問4 日本銀行は、私たちの生活に関わる一般の銀行とは異なる特別な役割を担っています。日本銀行が、一般の銀行に対して資金の貸し出しや預金の受け入れを行う役割を何と呼びますか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| 1. 発券銀行 | 2. 政府の銀行 | 3. 銀行の銀行 | 4. 市中銀行 |
|---------|----------|----------|---------|

問5 企業の資金調達に関する資料において、ある企業が「将来の成長を見越して株式を発行し、投資家から広く資金を募った」と説明されている場合、この調達方法の特徴として適切なものはどれですか。（2016年 山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 企業が投資家から直接、資金を調達する「直接金融」にあたる。 | 2. 銀行などの金融機関を介して資金を借り入れる「間接金融」にあたる。 | 3. 政府が中央銀行を通じて、市場の資金量を調整する政策にあたる。 | 4. 家計が銀行に預金し、その利息を受け取る仕組みにあたる。 |
|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|

問6 家計や企業から「預金」として資金を集め、その資金を必要としている別の個人や企業に「貸し出し金」として提供するという、銀行が果たしている「仲立ち」の役割を何といいますか。（2019年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------|---------|----------|------------|
| 1. 金融仲介機能 | 2. 直接金融 | 3. 通貨発行権 | 4. 支払準備金制度 |
|-----------|---------|----------|------------|

問7 日本経済において、物価が持続的に下落するデフレーションが進行している時期の経済状況や政策について述べたものとして、正しい記述はどれですか。（2017年 茨城県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 物価の下落により貨幣の価値が相対的に上がるが、企業の収益悪化や賃金の低下を招き、さらなる景気の冷え込みにつながりやすい。 | 2. 需要が供給を大幅に上回っているために物価が下落しており、日本銀行は通貨量を減らすために「売りオペレーション」を実施する。 | 3. 物価の下落は消費者の購買力を高めて景気を浮揚させるため、政府は増税を行って市場の通貨量を回収し、経済の安定を図る。 | 4. 通貨の価値が下がり続ける現象であるため、日本銀行は公開市場操作を通じて市場の通貨量を増やすことで、物価の下落を食い止める。 |
|---|---|--|--|

問8 景気が悪化している局面において、市場に流通するお金の量を増やして景気を刺激するために、日本銀行が行う金融政策の内容として最も適切なものはどれですか。（2020年 大阪公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| 1. 日本銀行が市中銀行から国債を買い入れ、代金を支払うことで市場の資金を増やす。 | 2. 日本銀行が市中銀行に対して国債を売却し、市場から資金を吸い上げる。 | 3. 財務省が所得税などの増税を決定し、家計の消費を抑制させる。 | 4. 金融庁が各銀行に対して、企業への貸し出しを厳格に制限するよう命令を出す。 |
|---|--------------------------------------|----------------------------------|---|

問9 外国為替市場において、1ドル=100円だった為替レートが1ドル=140円になるような、他国の通貨に対して日本円の価値が相対的に下がる現象を何と呼びますか。また、その際、海外から輸入される牛肉などの輸入価格はどう変化しますか。正しい組み合わせを選びなさい。（2026年 鳥取公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 円安となり、輸入価格が上昇する | 2. 円安となり、輸入価格が下落する | 3. 円高となり、輸入価格が上昇する | 4. 円高となり、輸入価格が下落する |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 不況時に、日本銀行が銀行から国債を買い取って代金を支払うことで、企業への貸し出しを促し景気を回復させる。	買いオペレーションは、景気が停滞している「不況」の際に行われる代表的な金融政策です。日本銀行が国債を買い取ることで銀行に資金が供給されると、銀行は企業などへ積極的に資金を貸し出せるようになります。その結果、世の中の金利が下がって投資や消費が活発になり、景気の回復が図られます。逆の状況である好況時に国債を売る操作は、売りオペレーションと呼ばれます。
問2	答え 1 公開市場操作	日本銀行が市場を通じて国債などを売買し、通貨量をコントロールする政策を公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）と呼びます。これは現在の日本における金融政策の中心的な手段です。景気が過熱しているときは国債を売って通貨を回収し（売りオペレーション）、不況のときは国債を買って通貨を供給する（買いオペレーション）ことで、物価と景気の安定を目指します。
問3	答え 1 世の中の通貨の量を調整することで、物価の安定を図るため。	もし紙幣が際限なく発行され、世の中に出回る通貨の量が多すぎると、お金の価値が下がり物価が上昇するインフレーションを招く恐れがあります。逆に少なすぎると不況の原因になります。日本銀行は「発券銀行」として通貨の供給量を適切にコントロール（金融政策）することで、お金の価値を安定させ、経済が円滑に回るようにしています。
問4	答え 3 銀行の銀行	日本銀行は一般の企業や個人とは直接取引を行わず、銀行などの金融機関を相手に資金を融通します。この役割を「銀行の銀行」と呼び、金融システムの安定を維持しています。一方、紙幣を発行する役割は「発券銀行」、国庫金の管理などを行う役割は「政府の銀行」と呼ばれます。
問5	答え 1 企業が投資家から直接、資金を調達する「直接金融」にあたる。	直接金融の最大の特徴は、資金の出し手（家計・投資家）と借り手（企業）の間に銀行などの「貸し手としての仲介者」が存在せず、投資家が企業の業績や将来性を判断して直接リスクを負いながら資金を提供する点にあります。株式の発行は、この直接金融の代表的な事例です。一方、銀行から融資を受ける場合は、銀行が仲介者となるため間接金融に分類されます。
問6	答え 1 金融仲介機能	銀行は、資金に余裕がある主体から預金を受け取り、資金を必要とする主体へ貸し出しを行うことで、経済活動を円滑に進める役割を担っています。このように資金の出し手と受け手の間に入って資金を融通することを、金融仲介機能と呼びます。これは、銀行などの金融機関が間に入る「間接金融」の代表的な形態です。
問7	答え 1 物価の下落により貨幣の価値が相対的に上がるが、企業の収益悪化や賃金の低下を招き、さらなる景気の冷え込みにつながりやすい。	デフレーションの状況下では、物価が下がるため貨幣の価値は相対的に高まりますが、一方で企業の売上減少や在庫の増加を招きます。その結果、労働者の賃金下がったり失業者が増えたりして消費がさらに落ち込む「デフレスパイラル」という悪循環に陥るリスクがあります。この不況を打開するため、日本銀行は公開市場操作によって市場に資金を供給し、通貨量を増やす金融緩和政策をとるのが一般的です。
問8	答え 1 日本銀行が市中銀行から国債を買い入れ、代金を支払うことで市場の資金を増やす。	不況の際、日本銀行は「公開市場操作」の一つとして、民間の金融機関（市中銀行）が保有する国債などを買い取る「買いオペレーション」を行います。これにより、銀行が貸し出しに回せる資金が増え、世の中に流通するお金の量が増加することで、金利が下がり経済活動が活発になることが期待されます。
問9	答え 1 円安となり、輸入価格が上昇する	1ドルを交換するために必要な日本円が100円から140円に増えることは、ドルに対して円の価値が下がったことを意味するため「円安」と呼びます。この状況では、海外から1ドルの商品を買い付ける際により多くの円を支払わなければならないため、輸入価格は上昇し、家計や企業のコスト負担が増加する要因となります。